

思ってます 西をさむ

春闌けて君思ってます思ってます 澄子

この「思ってます」の相手はさて誰でしょう。

私はふと私の事かなと想像してみましたが、一度も池田澄子さんにお会いした事も話を交わした事も有りません。でも、きっと私だと思いたいのです。

私は俳句の事を一生懸命に思っているのですが、何時も振られてばかりです。

しかし、改めて考え直してみました。先ずは最近一週間分の新聞の俳句投句欄を調べてみました。其処には沢山の古風な句が見受けられました。季語別に分類すると以外にも時候の句が少ないのです。生活の句が多いのは当然ですが、天文の句の多さには少々びっくりしました。動物、植物の句は其れなりの数だと思います。季節に依るかも知れませんが、地理の句、行事の句が極端に少ないのです。今回は、余りにもサンプル数が少ないせいだと思いますが、一度傾向を調べてみる必要が有りそうです。俳句作りは受験勉強では有りませんので、傾向と対策だけでは上達しませんが、傾向が解れば対策を立てられるかも知れません。

現在では困ったときには古い物、例えば城や仏閣とか廃れてしまった事象を詠みこめば、それなりの一句が出来上がると思っている様です。「落人の郷」なんて使うのは以ての外です。

幽玄や閑寂を何か勘違いしているのではないのでしょうか。微妙で奥が深く簡単には計り知れない事や物静かなことが、平生私たちが使っている言葉には無いと思っているのでしょうか。寂も撓も細みも私達の感性が呼び覚まして呉れるの

です。後ろ向きに考えずに一歩前へ進んでみては如何でしょうか。困った時の仏頼みはよして、困った時の軽みを大真面目に活かして見ては如何でしょうか。決して古式に振り回されないでください。そうすれば俳句に新しい道が開けて来ると思います。

俳句は大衆文芸ですから、好きな様に遣ればよいのですが、私達は忘れてはならない事が有ります。それは、俳句の源泉は滑稽であると言う事です。時の移り行く中で、それに従って自然の営みが人間を包み込んでいると言う事を忘れてはなりません。悲しい時には涙を流し、嬉しい時には笑顔を作るのです。其の事を少しでも文章、俳句として残して行ければ良いのではないのでしょうか。

冒頭の句の思っている相手は、今から約六年前の東日本大震災で命を奪われた人々や、今なお苦しみと悲しみを抱えておられる人への哀情ではないでしょうか。この句の「春開けて」が思いを深くします。

泉あり子にピカドンを説明す 澄子

この道の先に原子炉鳥曇り 澄子

これらの句を詠まれた池田澄子さんだからこその句だと思ってます。